

救急医療における検査の重要性

◎今井 寛¹⁾

三重大学医学部附属病院 救命救急センター センター長・教授¹⁾

近年、救急医療における緊急検査へのニーズや関心は強く、また、検査項目の充実により迅速な診断に役立つことから、その重要性と必要性は益々高くなるものと思われる。2012年には、日本救急検査技師認定機構が設立され、日本臨床救急医学会、日本臨床衛生検査技師会、生物試料分析科学会、日本臨床検査同学院、体液・代謝管理研究会、緊急検査研究会の協力支援を受け、統一した基準の下に救急検査に関わる技術者として認定救急検査技師の認定を進めている。救急医療における臨床検査の充実、認定救急検査技師による検査結果を正確かつ迅速に提供する知識と技術の普及によって図られている。救急医療の現場で臨床検査技師に求める業務は、1) 大量出血が予想される患者の緊急輸血の手配・準備・予想、2) 緊急性の高い疾患の診断・治療を決定する緊急検体検査、3) 異常値に対する検査結果の適切なフィードバック、4) 検査機器の精度管理・メンテナンス、5) 超音波・心電図・脳波などの生理学検査、6) 感染に対する微生物検査など多岐にわたる。また、各地域の基幹病院の救命救急センターにおいて、臨床工学技師と薬剤師が常駐しているケースはあっても、臨床検査技師が常駐しているケースは全国的にはまだ少数と思われる。臨床検査技師が患者への検査内容の説明、糖尿病診療指導、院内感染対策チーム、栄養サポートチームへの参加、内視鏡検査の補助及び摘出検体の処理などを行う施設もあり、検査室内の業務にとどまることなく、臨床の現場でさらなる活躍の場を広げるべきであり、臨床検査技師がチーム医療の一員として積極的に参画して欲しいと切に願っている。

救命医療において欠かせないものがPOCT (point of care testing) である。POCTは、患者の傍らで検査し、その結果を速やかに診療に活かす検査の仕組みで、今後も拡大することが見込まれている。近年の技術革新によって、機器の小型化や操作の簡便性の向上が進んだこともあり、設置部署がER、ICU、OR、その他の領域に拡大し、臨床検査技師のみならず、医師・看護師・臨床工学技士など様々な職種 of 医療従事者が使用する状況となっている。

しかし、その一方で、POCTは品質保証の面で大きな課題を抱えている。米国では、POCT運用システムが確立されており、POCTコーディネータ (我が国ではPOCコーディネータと呼ばれる) という専門職によって機器の保守、検査項目の管理、データの品質保証・管理、使用者への教育訓練を実施している。しかし、我が国では、POCTを実施する際の法的な要求事項や監査機構が確立されておらず、POCT機器の管理体制そのものが設置部署まかせで、臨床検査技師が品質保証に関与していないケースがある。迅速な結果報告は重要であるが、品質保証が伴っていないければ誤診につながるということをあらためて考えなくてはならない。

今回、救急医療における臨床検査技師の参画についての現状と課題を踏まえ、今後、我が国におけるあるべき姿と将来展望、臨床検査技師への提言を行うと共に、POCTの代表的な検査の一つである血液ガス分析を具体例として取り上げ、POCTにおける品質保証の重要性の理解を深めることを目的とする。

連絡先：三重大学医学部附属病院

救命救急センター 059-232-1111